

# おおさか環境科

小学校3・4年生

< 第9版 >



小学校 3年 組 4年 組

名前



目次

はじめに—環境を学ぶみなさんへ・・・	1	<b>3</b> 水道の水や電気はどこからくるの・・・	33
<b>1</b> 身のまわりの生き物を見つけに出かけよう・・・	3	① わたしたちのくらしをささえる水・・・	34
① チョウがやってくる草や木はどれ？・・・	3	② 使った水のゆくえ・・・	40
② 学校で生き物をさがしてみよう・・・	4	③ 自然の力を使ったエネルギー・・・	47
③ 公園や神社でも見つけてみよう・・・	6	<b>4</b> 夏をすずしく!大作戦!!・・・	50
④ いろいろな魚や水生生物・・・	8	① 大阪の夏の気温の状況・・・	50
⑤ いろいろな鳥・・・	9	② 水を使って・・・	51
環境学習施設マップ・・・	10	③ 植物を使って・・・	52
<b>2</b> へらそうごみ・・・	11	付録	
① 毎日出てくるたくさんのごみ・・・	12	SDGs (持続可能な開発目標)・・・	54
② ごみの集め方・・・	14	資料	
③ ごみをしよりする工場・・・	18	大阪市の環境年表・・・	55
④ 資源ごみのゆくえ・・・	22		
⑤ ごみをもやした後のしより・・・	23		
⑥ ごみをへらすためにわたしたちができること・・・	25		
⑦ ごみの量をへらしてまちを美しく・・・	28		
⑧ ごみしよりにたずさわっている人びとの気持ち・・・	30		

このマークがついたところは、動画や音声、アニメーションで学習することができます。

令和元年度「海ごみをなくそう」子どもポスターコンクール受賞作品



市長賞  
ともぶち  
友淵小学校 2年生  
おかた かほ  
岡田 佳穂さん  
(学校名・学年は受賞当時)  
受賞作品は、市内を走るごみ収集車に掲示されています。  
他の受賞作品は、こちらからごらんいただけます。  
<https://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000490917.html>



はじめに

環境を学ぶみなさんへ

今朝、みなさんが起きてから今までのことを思い出してみてください。水道の蛇口をひねると出てくるきれいな水で顔を洗い、歯をみがき、トイレをすませた後はレバーやスイッチ一つで水を流してきましたね。それからエアコンや暖房のきいた部屋で、冷たいジュースや温かいお茶を飲み、朝ご飯を食べて家を出てきたことでしょう。

私たちがなにげなく過ごしている毎日は、とても便利な機械や設備に支えられていますが、それらの多くを動かしているのは電気やガスといったエネルギーです。日本は、世界から見ても家の中に電気で動くモノがとても多い国と言われています。それはとても便利だけれど、資源やエネルギーをたくさん必要とする暮らし、ということなのです。

学校に来る道で、見たこと聞いたことを思い出してみてください。鳥が鳴いていましたか？ 道ばたの木や地面の小さな草にお花が咲いていましたか？ ウメやキンモクセイの花のようにいい匂いがしましたか？ イチョウの実のように、少しくさい匂いがしましたか？ 葉っぱの色はどうでしたか？ 近づいてみると、木や草に小さな虫がいまませんでしたか？ みなさんの身の回りにはたくさんの動物や植物がいて、季節によって変化しているのです。

みなさんの学校のなかにも木や草があり、いろいろな鳥やチョウ、トンボなどがやってくるでしょう。教室で昆虫やメダカなどを飼っているクラスもあるかもしれませんね。小さな生き物でも、土や水というすみかが必要ですし、エサも必要です。土には目に見えない小さな生き物がたくさんいますし、水槽には水草を入れてあげているでしょう。どんな生き物も、ほかの生き物なしに生きていくことはできないのです。



私たちのくらしは、たくさんの生き物に囲まれています。たくさんの生き物が生きていくことのできる環境は、私たち人間にとっても大切な、豊かな環境なのです。



ところが、人間が便利なくらしをしようとする、自然の環境に悪い影響を与えてしまいます。たとえば水道の蛇口からきれいな水が出るまでには、たくさんのエネルギーが使われ、そのエネルギーを作るために石油や石炭を燃やすと環境が悪くなってしまいます。

便利なモノにあふれた生活ですが、モノは自然の中にある資源を原料として使い、やがて使われなくなるとごみとしてすてられることで、自然に迷惑をかけています。くらしが便利になればなるほど、自然の環境が悪くなっていくのですね。やがて、今はあたりまえと思っている身近な生き物たちがいなくなってしまうようになるかもしれません。

ではそうならないために、私たちには何ができるのでしょうか。例えば歯みがきの間は水道の蛇口を締めれば、それだけ水とエネルギーの節約になります。モノを長く大切に使い、それだけごみを減らすことができます。ごみをすてる時は、分けてすてれば、それにごみを減らすことにつながります。



そのほかにもみなさんができることはたくさんあります。この「おおさか環境科」にはそのためのヒントがたくさんありますので、ぜひ自分でできることを一つでも多く見つけて、今日からやってみてくださいね。みなさんのがんばりに期待しています。

おおさか環境科教材編集委員会【監修】  
花田 眞理子（大阪産業大学大学院教授）